令和７年度　　日野市立 東光寺小学校　　経営重点計画　　自己評価シート　　令和8年3月公表

★学校の教育目標　○明るい子ども　○考える子ども　◎強い子ども

★目指す学校像（ビジョン）

【目指す児童像】　○自然を大切にし、優しい心で接する子供　○自ら考え、判断して、よりよく学び、行動する子供　○健康・安全に心掛け、前向きな気持ちで生活する子供

【目指す学校像】　○安心・安全な学校　○子供が嬉々として登校し、自分の成長を実感する学校

【目指す教師像】　「共に　あたたかく　きびしく」　○教職員同士、地域・保護者と共に　○報告・連絡・相談を迅速・密に　○服務事故ゼロ

★重点計画の概要

学校の教育目標、目指す学校像達成のため、第4次日野市学校教育基本構想「すべての“いのち”がようこびあふれる今と未来をつくっていく力」の育成を学校経営の理念の中核とし、その中で、本校は児童が安全に、安心して生活する中で、児童一人一人が自尊感情や事故有用感を高めるため「児童の安全・安心プロジェクト」を行う。具体的には
①「安全・安心」な学校環境構築のために、生活指導では、「東光寺スタンダード」を浸透・徹底させ、規範意識の育成、基本的な生活習慣・授業規律を確立する。また、児童発の「学校をより良くするための取組」を推進する。
②校内研究において算数を研究することで教員全体の教科指導力を高め、児童が意欲的に取り組む、「分かる」「できる」 授業を全教員で実践するための研鑽を積む。
③コミュニティ・スクールとして、地域との双方向のつながりを強め、地域に根ざした学校を目指す。地域の特色を生かした活動の充実と、地域のために貢献・活動をする児童を育成する。地域・保護者がボランティアを授業や教育活動全般へ積極的に関与する。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価点	取組指標	評価点	成果指標	学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	【安心できる学校】 ①教育活動の基盤は「安心・安全」であることを常に念頭に置き、安全で安心できる学校体制をつくる。 ②生活指導の充実を基盤として豊かな人間関係を醸成し、自他を大切にする心、正義感や自尊感情・自己有用感、社会貢献意識など人権意識や豊かな人間性、社会性を育てる。	校内支援体制及び相談体制を充実し、児童全員が安心して過ごすことができるよう、組織的にいじめ・不登校の未然防止、早期発見、即時対応に努める。	年３回の「ふれあい月間」等を利用し、全校で定期的ないじめの調査を実施すると共に、児童の自発的・自主的な活動を実施する。 〈主な取組〉 ・学期に１回以上のいじめ対策研修、毎週児童の実態把握と情報共有のための職員打ち合わせ実施 ・スクールカウンセラーによる５年生への全員面接 ・年３回の「いじめアンケート」の実施と聞き取り調査の徹底 ・朝会等でのいじめ防止に関する講話	4	4 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が１００％ 3 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が９０％以上 2 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が８０％以上 1 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が８０％未満	4	4 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が９０％以上 3 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が８０％以上 2 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が７０％以上 1 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が７０％未満	・問題ないと考えるが、やりすぎはないはずなので、諸対応継続お願いしたい。 ・児童対応ではオール東光寺の意識を強く感じた。いじめ対応に関しては組織的に素早く行うことが重要なので高い意識で臨んでほしい。 ・個人への指導から団体みんなへの指導で子供たちの思考を変え、一人一人が対応できる教育ができればと思っている。	・安心・安全な学校づくりの取組が確実に進んでいる。 ・いじめアンケート、全員面接は丁寧に実施し、すぐに対応する取組を継続した。 ・細かいトラブルを確実に発見し、速やかに対応する体制を維持・継続するための組織づくりを進めることで、学校全体で児童がさらに安心できる環境を構築していく。
		学校生活全体を通して、基本的な生活習慣や学校のきまりについて、全教職員が、いつでも、どこでも一貫性のある指導を行う。	「東光寺スタンダード」の基本的な考え方や実践方法を教職員全員で共通理解し、浸透・徹底を図る。また、保護者会や学校公開、生活指導便り等の機会を通じて、東光寺スタンダードの実践を保護者や地域の皆様に向け発信し、地域全体で子供たちのよりよい生活習慣づくりに取り組む。 〈主な取組〉 ・時間の厳守　・廊下の歩行 ・来校者や友達への挨拶の励行　・脱いだ靴の整理整頓、ゴミ拾い等の奨励 ・授業を中心に互いに敬称を付けて名前を呼び合う習慣 ・丁寧な言葉遣い ・他者を尊重した関わりの充実 ・計画・代表委員会が中心となった「学校をよりよくするための児童発の取組」の実践等	4	4 東光寺スタンダード実施の自己評価で３以上達成したと答えた教員が９０％以上 3 東光寺スタンダード実施の自己評価で３以上達成したと答えた教員が８０％以上 2 東光寺スタンダード実施の自己評価で３以上達成したと答えた教員が７０％以上 1 東光寺スタンダード実施の自己評価で３以上達成したと答えた教員が７０％未満	3	4 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が９０％以上 3 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が８０％以上 2 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が７０％以上 1 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が７０％未満	・項目ごとに状況を確認し、もし足りないところについては補うなど、手当も考えてほしい。 ・緊張した時期を過ぎ、一部の児童で時間を守る意識が薄い。安全と思われる時間帯に決められた通学路を通る、等の指導をお願いしたい。 ・東光寺スタンダードに関して先生全体で話し合い、ブラッシュアップしたり再確認する場を作るのも大切だと思う。	・東光寺スタンダードは、全教員で今年度重点的に取り組み、一貫した指導体制を築いた。 ・児童自身が「自分は大切にされている。」という実感をもつことができている。言葉遣いや時間厳守など、児童への浸透はさらに推進していきたい。 ・「さん」付けに関しては、年々習慣化されてきているが、学校としてさらなる定着を図る。
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	【子供たちがつくる学校】 児童が学習・活動を通じて互いに認め合う中で、「自分は大切な存在である」「自分が役に立っている」「自分の居場所がある」ことを実感し、自己有用感を高め、健全な自尊感情を育む。	児童が主体的に学ぶための学習指導の充実を図る。また、学級経営充実と児童の主体性向上のため、特別活動を出発点にした、児童が自発的に進める安心・安全の取組の充実を図る。また、児童の心の教育推進のため、特別の教科道徳の授業と日常の道徳教育の充実に取り組む。	校内研究で取り組む算数の指導方法研鑽を中核に、各教科等の授業充実のための取組を推進する 〈主な取組〉 ・算数の授業の指導方法の工夫、日常の授業の充実に取り組む。 ・各教科の授業で児童が発見の喜び、習熟の喜びを実感できるよう指導を工夫する。 ・日々の授業で明確なねらいを設定し、授業を行う習慣を全教員に浸透させる。	4	4 明確なねらいを明示して授業を行った教員が９０％以上 3 明確なねらいを明示して授業を行った教員が８０％以上 2 明確なねらいを明示して授業を行った教員が７０％以上 1 明確なねらいを明示して授業を行った教員が７０％未満	4	4 児童アンケートで「授業は分かりやすく、意欲的に取り組むことができた。」と答えた児童が８０％以上 3 児童アンケートで「授業は分かりやすく、意欲的に取り組むことができた。」と答えた児童が７０％以上 2 児童アンケートで「授業は分かりやすく、意欲的に取り組むことができた。」と答えた児童が６０％以上 1 児童アンケートで「授業は分かりやすく、意欲的に取り組むことができた。」と答えた児童が６０％未満	・年度目標、学年目標に対して、確実に推進できているか、次年度へのフィードバックは何か、常に発展的な思考で進めてほしい。 ・授業が理解できず、飽きた態度を示す児童にも時間を掛けて辛抱強く接してほしい。理解できた時の子供の輝く顔がいちばん美しいから。 ・少人数の指導や個別指導は現在注目を集めているので、ぜひ充実させてほしい。	・算数の研究では、授業研究を従充実させるとともに、教員間で情報共有し、児童への指導方法の統一を推進した。 ・次年度は、日々の実践を共有することで、さらに指導を充実させていく。 ・各教科等の授業で、授業の最初にめあてを示す取組を進めてきた。今後も継続していく。
			児童主体の「安心・安全な学校づくり」の取組を推進する 〈主な取組〉 ・学級活動の充実により居心地がよい学級になるための取組を行う。 ・委員会を中心に児童が主体となった学校をよくするための取組を企画・実践する	4	4 特別活動・道徳教育の充実を図った教員が９０％以上 3 特別活動・道徳教育のを図った教員が８０％以上 2 特別活動・道徳教育の充実を図った教員が７０％以上 1 特別活動・道徳教育のの充実を図った教員が７０％未満	4	4 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために活動できた」と答えた児童が８０％以上 3 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために活動できた」と答えた児童が７０％以上 2 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために活動できた」と答えた児童が６０％以上 1 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために活動できた」と答えた児童が６０％未満	・卒業生を送る言葉、学校スローガン等、児童の主体性を軸に地域として加わることができた。作業の割り当てを明確にすることで、スムーズに進められたと思う。 ・挨拶運動や美化活動など、積極的な取組を肌で感じている。すべての子供が優しい笑顔で挨拶できるよう、今後も声掛けを継続する。 ・児童の創造性を高める教育活動にも取り組んでほしい。	・児童によるあいさつ運動や、校内美化活動など、児童が主体的に学校をよりよくするための取組を行うことができた。 ・縦割り班活動が充実し、高学年が低学年をリードしていく雰囲気が醸成された。高学年児童がよりリーダーシップを発揮できるよう環境を整えていく。 ・児童を中心に地域の方と関わり合う活動を充実させていく。
社会と未来に開き、みんなでつくる	【地域共創】コミュニティ・スクールとして地域と学校との双方向の教育活動を展開し、地域に根ざした学校を目指す。	教育活動全体を通じて家庭や地域との連携を図りながら、地域の自然の素晴らしさや生物を育てる喜びを通し、”いのち”の尊さを実感させる。	“いのち”を実感できる体験的な活動や生きる喜びや楽しさを実感できる学習や活動を行う。 〈中心的な活動〉 ・全校「一人一鉢」栽培（高学年は菊、４年生はコスモス、３年生はパンジー、２年はクロッカス、１年はチューリップ） ・農業活動の体験を通した「食」への感謝と正しい知識の理解 ・“いのち”をテーマとした道徳授業地区公開講座や学校公開での授業公開 ・“いのち”の大切さを学ぶための体験学習（原爆先生・震災体験者から学ぶ）の充実 ・保護者・地域の方々と共に避難所開設訓練の実施	4	4 “いのち”の取組を学期に１回以上行った教員が９０％以上 3 “いのち”の取組を学期に１回以上行った教員が８０％以上 2 “いのち”の取組を学期に１回以上行った教員が７０％以上 1 “いのち”の取組を学期に１回以上行った教員が７０％未満	3	4 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が９０％以上 3 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が８０％以上 2 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が７０％以上 1 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が７０％未満	・地域の代表として栽培活動に関わる際に、全学年同じ行程で進めることで、児童と教員に作業を覚えてもらえるよう工夫した。 ・将来的には教員が中心になって授業を進めることを期待している。 ・コロナ禍で避難所開設についての取組が中断していたので、避難所運営の原則を確認し、再始動したい。 ・児童の主体性や素朴な疑問を大切にした活動を行ってほしい。	・一人一鉢運動は、校友会等の地域の方々が積極的に関わってくださることで、児童が意欲的に取り組めるようになってきている。 ・児童自身がより主体的に一人一鉢運動に取り組めるように活動の体制を整えていく。 ・ゲストティーチャーを招いた平和に関する講演会等、新しい取組を行うことができた。児童の実態に合わせてさらに改善していく。
		経験させてもらう学習から、地域に貢献できる活動へと高めていく。開校して現在までお世話になった保護者・地域の方々に感謝と尊敬の念をもたせる。	地域の協力により、農業体験をはじめとして地域との協働的な学習活動を展開できている。今後は、地域の方々への感謝を具現化できるよう、児童自身が地域の活動に参加し、主体者として地域の活動に関わる経験を積ませていく。 〈主な取組〉 ・地域と積極的に関わり、子供たちが主体となって考え、発信する活動、地域と共に行う活動、地域に貢献する活動など、双方向の活動を行っていく。	4	4 児童が主体的に地域と関わる学習活動を企画・実践した教員が９０％以上 3 児童が主体的に地域と関わる学習活動を企画・実践した教員が８０％以上 2 児童が主体的に地域と関わる学習活動を企画・実践した教員が７０％以上 1 児童が主体的に地域と関わる学習活動を企画・実践した教員が７０％未満	4	4 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が８０％以上 3 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が７０％以上 2 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が６０％以上 1 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が６０％未満	・数年前と比較して、コロナの状況も落ち着いてきたので、収穫祭のやり方を変えるだとか、地域体験を増やす等を検討してほしい。 ・校内における学習へのサポートに関して、参加の仕方と体験談を書いたプリントをある期間に配布して、市内のボランティア活動の一覧として推薦してみてはどうか。 ・教職員と地域ボランティアが一緒に作業する場がもっとほしい。	・地域の方への挨拶など、児童が意識的に地域と関わろうとしていた。 ・稲作、梨園見学、東光寺大根を使ったたくあん作りと、地域での体験活動を充実させることができた。児童がより主体的に活動に取り組むようになっている。 ・収穫祭の実施方法や内容に関して、より児童と地域とが結び付く機会にしていく。

※評価指標・評価基準は、２の段階を現状としています。